

らえるらえる

Well Well

第11号



坂井瑠実クリニック

スプリングセミナー2004開催!!



4月25日(日)東灘区民センターにおいて、「あなたの透析は充分ですか?」と題して勉強会が開催されました。スタッフ42名、患者52名が集い、春のひとときを有意義に過ごしました。

坂井瑠実クリニック 副院長 喜田智幸

今年も暑い夏がやって参りました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。世間巷間では医療経済についての議論が当たり前のようになり取り上げられ、診療報酬により医療内容が変わるとか、診療報酬が下がると医療の質が下がるとかよく言われるようになりました(特に透析医療において)。患者さんにとって最善の医療を提供するのが医療者であると思っておりますので、お金と医療の質を秤にかけているような最近の風潮は全く嫌になつていきます。当院は世の中がどのように動こうとも最善の医療を提供し続ける医療機関でありたいと思います。ということで、これからもよりよい医療をするために充実を図っていきます。

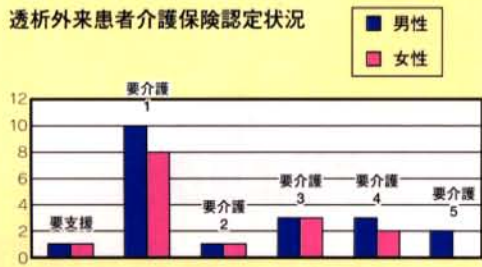
ところで医師の数も増えました。坂井院長、新光先生のことは皆さん良くご存知だと思いますが、東先生、岡本先生、三上先生については、あまりご存じないかもしれませんので簡単に紹介します。三人とも若く見える女性ですが、結婚して子供もいます。医師としての経験は皆さん10年以上で働き盛りといってもよいと思います。それぞれ得意分野を持っており、東先生は内科専門医、老年病専門医、産業医、健康スポーツ医、ケアマネージャーなどの資格を持っています。これらはそれぞれ一定基準の経験が必要で、さらに難しい試験に合格しなければならないので大変な勉強家であることは間違いないでしょう。岡本先生はやはり内科専門医、ケアマネージャーで、平成9年には透析専門医にもなっていますので、透析医療に関しては坂井院長に次ぐベテランといつて良いでしょう。三上先生は泌尿器科専門医、産業医で泌尿器科疾患に関しては三上先生に相談することになっています。また東先生、三上先生については当院で経験を重ねられていますので、近いうちに透析専門医の試験を受ける予定です。三人とも仕事にまじめで、熱心です。皆さん心配なことがあったら、遠慮なくこの三人や坂井院長、新光先生もしくは私に聞いて下さい。今年の夏も皆さん元気で乗り越えましょう!

相談室から…

生活アンケートにご協力ありがとうございました。141名（男性83名女性58名）

実生活の貴重なご意見を伺い、今後皆様のQOLの向上に役立てていきたいと考えております。
アンケートのごく一部ですが、今回は通院と介護認定の状況を報告させていただきます。

透析外来患者介護保険認定状況



介護認定を受けていない…… 男性：63名（75.9%）

女性：43名（74.1%）

介護認定を受けている……… 男性：20名（24.1%）

女性：15名（25.9%）

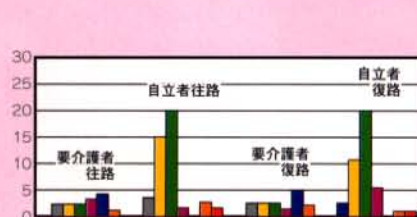
ほぼ4人に1人が介護のサービスを受けている。

内訳はほとんどの方が週3回の通院に利用しており、同居家族がおられる場合は特に家事援助より通院介助が主となっていた。

透析外来患者通院手段（男性）



透析外来患者通院手段（女性）



通院手段は、介護認定を受けておられる方は「介護保険業者・ボランティア(ジャスミン等)の送迎車もしくは家族の自家用車」であり、介護の必要でない方は「バス・電車及び自家用車」が約8割である。しかし、復路に関して一部の女性が体調不良から公共交通機関を使わず「タクシー」利用になる場合がある。

透析外来患者所要時間（男性）



透析外来患者所要時間（女性）



通院にかかる時間は、男女とも30分以内がほとんどである。60分前後かかる方はごく一部で、近くの職場から来院し、遠い自宅へ帰るという場合である。また通院のため転宅をされた方もある。このように透析やそれにかかる通院が、患者にとって生活の中で多大な時間と位置を占めている。

* 以上より、通院透析が個人に時間的・身体的・精神的制約を課しており、日常生活でいかに負担となっているかがよくわかります。今後各人が高齢化することを考え合わせると、より一層通院におけるさまざまな問題を検討する必要があります。

* 一方、この調査で「透析にかかる時間」を生活の一部としてうまく取り入れておられる方も多くおられることがわかりました。またの機会にご報告したいと思います。

相談室では、病気になって気持ちが落ち込む、生活に関しての心配や不安、人間関係（家庭・職場）で悩んでいる、年金（障害・高齢）のことがわからない、福祉制度をもっと活用したいなどありましたら、ぜひお声かけください。より良い療養生活・社会生活ができるよう一緒に考えて**生きましょう**。

なお、週一回（月曜日が火曜日）の相談日ですので、よろしくお願ひします。

CAPDの方はまずはお電話ください。

ケアマネージャーから…

介護保険における外出・通院介助について

高齢化に伴い、透析をされている方にも介護を必要な方が年々増えてきておりますが、実際、今の介護保険制度には、移動（送迎）のためのサービスはありません。先日6月に行われた第49回日本透析医学会学術集会においても「要介護透析者にとって週3回の通院を全てカバーするための公的支援はない」「介護保険の導入も解決策につながるとは思えない現状である」とありました。しかし、下記に示すような時は利用できる事があります。通院介助を必要の方は気楽に相談してみてください。

介護保険の訪問介護において、外出介助の介護サービス



介護保険の適用となる



介護保険の適用とならない

神戸市保健福祉介護保険課からの資料引用

1 「身体介護が中心である場合」(ヘルパーと運転手が別)

ヘルパーは車両を運転せず、利用者に対して**常時介助**(移動中の見守り介助、単なる見守りは除く、別途交通費必要)を行い、交通手段として公共交通機関(電車・バス・タクシー等)を利用する場合。



自宅から
乗車までの間



移動中の
常時介助



降車から
病院等までの間

2 「通院等のための乗車又は降車の介助が中心である場合」(ヘルパーと運転手が同じ)

ヘルパー等が自ら運転する車両への乗車又は降車の介助をするとともに、併せて乗車前・降車後の屋内外における移動等の介助、又は通院先若しくは外出先での受診等の手続き、移動の介助を行うサービスです。運転中は介護保険対象外になります。



自宅から
乗車までの間



乗車中



降車から
病院等までの間

※他に通院手段として

「ジャスミン・移動サービスネットワークこうべ」があります。

居宅介護支援事業所 **みのり** (直通 822-8135)
ケアマネージャー 西村眞澄



『ジャスミン』って何？

「ジャスミン」は平成11年1月に発足した、難病患者・障害者の通院困難な方を何とかしたいと言う思いの人々が集まり、送迎支援活動をしているボランティアグループです。

平成14年には、NPO法人の認証も受け、発足当初、80名あまりの会員も現在では、700名を超え、送迎回数も4000回を超えるまでになり、ボランティアの方や坂井院長をはじめ、病院スタッフ、患者会の皆さんなど賛助会員の方のご支援、ご協力を頂いて活動をしています。

それでも、難病患者の高齢化に伴い、利用者のニーズも高くなってきており、ボランティア不足、資金不足が大きな問題点でもあります。「ジャスミン」では、「ジャスミン」の活動に同意いただける方、特に平日の運転ボランティア募集と賛助会員のご協力・ご支援もお待ちしております。また、ご利用、会員登録にあたっては、右記の内容で送迎を実施しており、利用者の方の相談も受け付けておりますので、お気軽に坂井瑠実クリニック北側事務局までお越し下さい。

☆ご利用いただける方…原則として神戸市在住か又は通院している難病患者・障害者で自力での行動が困難な方が対象です。

☆送迎の内容…通院、リハビリ、各種研修会等、その他必要に応じて相談・コーディネートの上、送迎を行います。(会員登録が必要です。)

☆利用料…1回片道につき(走行距離10kmまで)500円を利用寄附金として頂きます。

*走行距離10kmを超える場合は、1kmにつき50円追加加算。

☆会員登録…会費、年額10,000円を申し受け、登録させていただきます。

あなたの空いている時間を、ご提供下さい。
一緒にボランティア活動してみませんか？



NPO法人 **ジャスミン** 事務局
TEL.842-1786

毎年恒例の春セミナーが、4月25日に東灘区民センターで開催されました。今年は「あなたの透析は充分ですか？」をテーマに、看護部、栄養科、臨床工学科からの話がありました。

看護部からは「災害の備え」について、緊急離脱時に使用する、セーフティカットを一人一人実際に体験して頂きました。皆さん、透析の機械横にセーフティカットの写真が貼ってあるのをご存知でしょうか？知ってはいたけど、これって何？と思われていた方もいらっしゃると思います。災害等の緊急避難時、透析回路の切断に使うものです。セーフティカットでの回路切断を体験されて、様々な感想を頂きました（ア

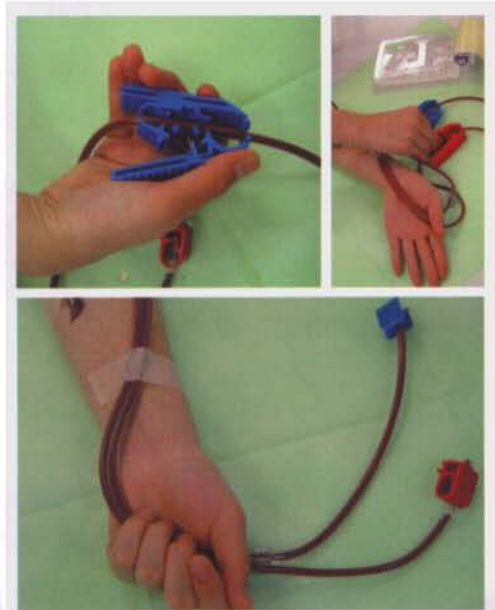
ンケートのご協力ありがとうございました）。何より、実際に感触を体験して頂いたのは好評だったようです。

普段から、災害の備えをされている方は11名(!)という、予想を上回る(?)アンケート結果が出ました。災害の備えについて、お手持ちの「腎臓のいろは」に載っていますので見ておいて下さいね。

栄養科からは「食事療法の基本」について、クイズ形式で話が進められました。臨床工学科からは「透析効率」について、総体的に男性は、女性よりも比較的長い時間の透析が必要というデータが示されました。男性の皆さん、どう感じられたでしょうか？

最後に、至適透析をめざしましょうという喜田副院

長の話で、今年の春セミナーは閉幕となりました。



坂井瑠実クリニック 春セミナー2004開催!!

看護部 城井 慶子



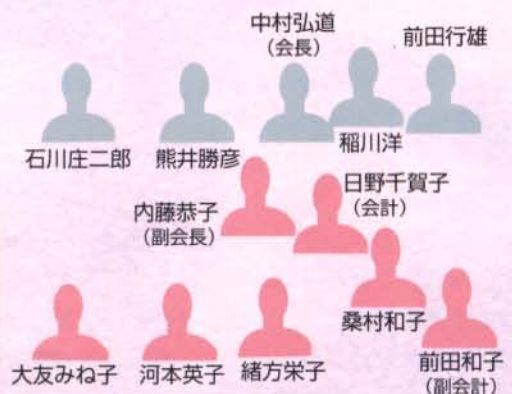
セーフティカット



患者会 『友愛会』から...

4月25日(日)東灘区民センターにおきまして第5回友愛会定期総会を行い、決算報告及び各議案の承認を得ることが出来ました。とどこおりなく終了した事をここに報告します。

平成16年度 幹事紹介



他、田中辰男(代表幹事)、黒越尚美、青木郷代 計15人です。どうぞよろしくお願ひします。

日本透析医学会 神戸で開催される

去る6月18日、19日、20日、第49回日本透析医学会学術集会が神戸国際会議場を中心に開催されました。

震災を経験した神戸ということで、全国から1万4千人余りの透析医療従事者が参加し、危機管理などに大きな関心がよせられました。

当院からもほとんどの透析スタッフが参加し、地の利を生かして業務の合間に代わる代わる熱心に勉強してきました。また各会場で坂井瑠実のスタッフが司会に発表にと大いに活躍した3日間でした。

●演題と演者は以下のとおりです。

| | |
|--|------|
| 「透析室における緊急離脱、避難訓練を実施して」 | 城井慶子 |
| 「透析条件の変更により心機能が改善した透析心の一例」 | 三上満妃 |
| 「経皮酸素ガス分圧測定装置（TCM-400）を用いてLDLアフェレーシス中の下肢血流を経時的に評価した症例」 | 喜田智幸 |
| 「BNPを指標とした透析患者の循環動態の管理」 | 竹下 薫 |
| 「被嚢性腹膜硬化症を疑ってCAPDを中止した2症例」 | 岡本久美 |
| 「二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺摘出術（PTX）看護のクリティカルパスによる業務改善」 | 植野由加 |

ランチョンセミナー

| | |
|-------------------------------|------|
| 「維持透析期におけるヘパリン起因性血小板減少症（HIT）」 | 小西修二 |
| イブニングセミナー | |
| 「今、透析の現場に求められているケア」 | 坂井瑠実 |